

記者会見で報告する長野県民医連の岩須事務局長（中央）と医療ソーシャルワーカーら=19日、長野県松本市



長野県民医連の岩須靖弘事務局長が19日に松本市で記者会見し、アンケートの結果を公表しました。

アンケートは2月、加盟する病院、診療所、施設などを利用する75歳以上を対象に実施。511人から回答を得ました。

「負担」回答80割

「医療費が2割化になった場合」の設問では、「とても負担」「少し負担」の回答が合わせて8割を超過しました。

現在の「1割負担」でも、「医療費を支払うための工夫」として「日々の生活費を切り詰めている」(40%)、「自分の貯蓄を取り崩している」(15%)と答えていました。

菅政権が今国会で成立をね

長野県民医連 調査を高齢者

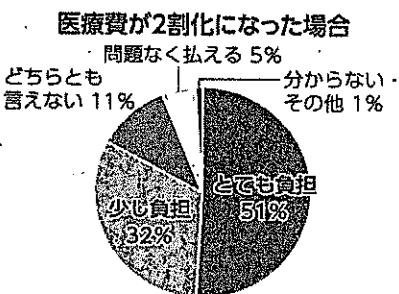
「コロナ禍に年金を減らされる一方なのに、病気にかかりやすい高齢者に2割負担はあることどう。早く死ねどうのか」。長野県民生医療機関連合会が実施した「75歳以上の医療費窓口負担2割化に関するアンケート調査」で、高齢者の深刻な実態が浮き彫りになり、切実な声が多数寄せられました。

コロナ禍収入激減 ■ 通院減らすしか…

もう一人は、75歳の誕生日の1ヶ月前に緊急入院した女性。借金を抱え、医療費の支払いができず、「75歳になれば医療費が安くなるから」と親族が誰もいないので頼れない。「医療費は命に関わること。絶対に反対です」「高齢者はいくつもの病気をもっている人が多いので、2割負担は大変です。病院へかかる回数を減らさなければ、全国で約370万人、長野県内で約7万人の窓口負担が2倍になります。

会見では、深刻な事例が紹介されました。一人は80代の女性。夫が入院し、自分の病気も分かり生

活が一変。飲食店を営む奥さんが、コロナ禍で妻子夫婦の収入が激減。年金だけでは医療費や施設入所費用の支払いができなくなりました。さらに国がコロナ禍の特別措置として介護報酬を引き上げたため負担が増え、事態はさらに深刻になりました。



もう一人は、75歳の誕生日の1ヶ月前に緊急入院した女性。借金を抱え、医療費の支払いができず、「75歳になれば医療費が安くなるから」と親族が誰もいないので頼れない。「医療費は命に関わること。絶対に反対です」「高齢者はいくつもの病

もう一人は、75歳の誕生日の1ヶ月前に緊急入院した女性。借金を抱え、医療費の支払いができず、「75歳になれば医療費が安くなるから」と親族が誰もいないので頼れない。「医療費は命に関わること。絶対に反対です」「高齢者はいくつもの病気をもっている人が多いので、2割負担は大変です。病院へかかる回数を減らさなければ、全国で約370万人、長野県内で約7万人の窓口負担が2倍になります。

岩須事務局長は、コロナ禍の中で「命の危機、生きていいくことの危機が広がっています。高齢者の生活実態から政治が学び、すべての人が医療を受ける権利を政治が保障すべきです」と強調し、2割化法案の撤回を強く求めました。

医療費2倍命の危機

法案撤回強く訴え

医療費2倍命の危機

法案撤回強く訴え